

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0891100173		
法人名	医療法人社団友朋会		
事業所名	グループホームクリクリ田彦 (青空ユニット)		
所在地	茨城県ひたちなか市田彦後原950-48		
自己評価作成日	令和4年2月20日	評価結果市町村受理日	令和4年6月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天井が高く、広々とした共有スペースがあり、快適に過ごしていただけるとともに各個室には介護ベッド、ダンス、洗面台が備え付けておりご希望であればご自身で使い慣れた家具等の持ち込みも可能となっています。また音楽療法を取り入れたり誕生会や季節ごとに利用者様、職員共に楽しめる行事を考え行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0892100173-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和4年4月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路沿いに位置し駐車場が広く整備され花壇やプランターで花を育て、反対側は工場の生垣があり事業所側は住宅地になっており、利用者は今迄と同じように過ごす事ができる環境にある。職員の研修はeラーニングを利用して受講結果を「報告書」として提出する為、全員がケアサービスに対する知識を取得し、職員の年齢層が厚い為それぞれの知識を活かし、利用者一人ひとりに寄り添った支援をしている。管理者はコロナ感染予防で行事での外出や買い物に行けない利用者のストレス緩和の為、毎週日曜日には職員と協力してユニット毎に利用者全員とドライブに出かけている。利用者が布パンツで過ごせるような工夫をし利用者が現在の生活が維持できる事が重要と考え健康管理に努めている。家族等はコロナ禍で利用者との面談ができない中、運営母体が医療法人で医療との連携が充実している事と、かかりつけ医の訪問診療が実施されている事が家族等の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に理念を掲示し実践できるよう努めています。	2年前に理念の見直しを行っている。フロアの掲示板に掲示し共有している。職員は理念に沿って利用者一人ひとりの個性に合わせた個別ケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の店舗等への外出が出来ませんが、施設周辺の散歩ではご近所の方への挨拶は積極的に行っています。	現在は事業所周辺に散歩に出かけ、近隣の人に挨拶をしている。コロナ禍で実施できていないが、様々なボランティアの受入れや納涼祭の実施などで交流を図っていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ禍という事もあり出来ておりませんが、地域の中学校の介護体験の場として来所して頂きました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面にて現状報告と、ご意見等あれば伺っています。	感染症対策のため集まらず、書面で現状報告を行っている。資料として報告をしているのみで各委員からの情報が把握できていない。	推進会議の委員に議題などを提供し、意見を求め委員のメンバーなども記載する議事録を作成することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行っていましたが、現在は見合わせております。	各種申請時や介護保険改定の時の相談などで市役所を訪問している。生活保護受給者がいる為、電話で情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないものとして利用者様の現状把握に努めながら職員間で情報共有をしています。	日常の支援の中でも職員同士で行動や言葉遣いに気を付け、身体拘束の無いケアに努めている。eラーニングで年1回研修を行い、職員は受講後報告書を提出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各職員eラーニングにて虐待について学び報告書を提出しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在ではできておりませんが、今後eラーニング等で学ぶ機会を設けていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内用をわかりやすい言葉で丁寧に説明するようにしています。その都度わからないことや質問があれば対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、ご家族様等へのご意見、ご要望に耳を傾けています。また、何かあれば介護部会(全体会議)で報告しアドバイスを頂きながら改善に努めています。	重要事項説明書に行政機関、公的機関の苦情相談窓口を記載している。玄関に意見箱を配置している。職員は家族等が面会に来た時や電話の際に話を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見や提案を出し合い、反映させています。	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに毎月のミーティング時や職員面接時に話を聞いて意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握、また人員配置を考慮しながら本人の希望しなくても有給休暇をいれたり等モチベーション維持、向上できるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	eラーニング受講を推進し、各自スキルアップできるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在ではできておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時はご本人様不安な事が多い為声掛けを密にしたり、関わる時間を多く取るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時からサービス開始時など特に不安も多いので、適宜本人様のご様子を報告したりしながらお話する機会を持つようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様とお話し合いながら状況把握に努め様々なサービスを考慮しながら検討します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様がご自宅で行っていたであろう家事等をできる範囲で一緒に行い同じ屋根の下で生活している事を実感して頂けるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	適宜利用者様の状況報告をしながら可能であれば病院受診等をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在面会や外出に制限がありますがご家族の了承を得られれば、馴染みのご友人等のご面会を受け入れています。	入居時に本人や家族等から聴き取り、これまでの馴染みの関係を把握している。家族等からの手紙を職員が読んで聞かせていたり、友人等の訪問がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者同士の関係性を観察し考慮しながらお互いが不快にならないよう、またコミュニケーションが取りやすい環境作りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在はできておりません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とお話や日頃の様子を見ながら希望や意向の把握に努めています。困難な場合でもご本人様の状態を考慮しながらご家族とも話し合いながら意向に沿える様努めています。	日常会話やふれあいの中で利用者の様子を見て意向の把握に努めている。言葉かけや職員の感覚で利用者の思いや意向を汲み取り、無理強いをしないケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、また担当ケアマネ様から生活歴やご自宅での様子等を伺い把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りの中から心身の状況把握に努め、何かあれば記録し、職員間で共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、職員間で情報収集しカンファレンスを行いプランの作成、そしてモニタリングを行っています。	家族等や本人の意向を基に職員間で話し合い、定期的にモニタリングを行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変わりがあった点や気づいた点等ケース記録したり、ミーティングやカンファレンスで議題にあげ、見直しに繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ訪問診療の検討等ご家族様と適宜話あっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は週1回のボランティア様を受け入れ大正琴や傾聴などを行っていただきましたが、現在は出来ておりません		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内医療機関と連携しご本人様及びご家族様の希望を考慮し了承を得た上で受診できるようにしています。また他の医療機関についても状況に応じ連携を図り適切な医療を受けられるように努めています。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。家族等が受診に同行する際には、バイタル表を渡し、必要に応じて状況も知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や内服薬等必要に応じて報告、アドバイスをもらい対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の対応や医療機関との情報共有を行い、カンファレンスにも参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについての意思確認を行っています。施設としてできる事、できないこと等を説明させていただき、ご理解を求めています。	重度化した場合における対応、及び看取りに関する指針、看取りについての事前確認書がある。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練など定期的に行えていませんが、事故発生時や急変時の対応の仕方などフロー図を作成し職員が見えるところに配置したり、対応時の注意点などeラーニングで学習しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制が整えていないが現状ですが備蓄品等は配置出来ています。	夜間想定を含む避難訓練を年2回行うまでに至っていない。訓練後の反省会を行うまでに至っていない。災害に備えた備蓄品を保管しているが十分な内容とはなっていない。	訓練は夜間や地震等の想定も含め年2回は実施して、反省会の内容から次回に向けた課題を決め訓練が活かされる事と懐中電灯や軍手等の用具の一覧表の作成と水の備蓄を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した声掛けや対応を心がけています。	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。個人情報に関する同意書があるが、肖像権に関して十分なものはなっていない。	肖像権に関して目的別に家族等が選択できるような同意書の作成を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様によっては意思表示が難しい方もいますので日頃の観察や傾聴を通して見極めていきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の希望をくみ取り、ペースにあわせて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方だと洗顔後に化粧水をつけていただいたりとその人の希望に沿って支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食べ物等を把握し提供せず代用品を出しています。利用者様、職員が会話を楽しみながら食事をし、食前後のテーブル拭きや湯呑洗いなど一緒に行っています。	器や盛り付けを工夫して、利用者が食事を楽しめるようにしている。現在は外食に行けないため利用者の希望でテイクアウトを取り入れている。誕生日には手作りケーキを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握を行っています。水分量が少ない方には飲んで頂くよう声掛けをし、拒否があれば時間をあけて提供したり、飲むものを変えて出したりと工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を記録し、適宜声掛け等を行い、失禁の軽減に努めています。	3ヶ月ごとにアセスメントを行い、自立支援介護を実施している。タブレットの排泄チェック表からそれぞれの排泄パターンを把握し、声掛け誘導しトイレでの排泄を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや運動、また飲み物にオリゴ糖を使用しています。利用者様によっては植物性のファイバーを使用し排泄状況の改善を目指しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかな時間設定はありますが、ご本人様の状況を考慮し声掛けをしています。無理強いせず、時間をあけての声掛けや、場合によっては日程をずらし対応しています。	1番風呂を希望する利用者やぬるいお風呂が好きな利用者は最後など利用者の好みに合わせた支援をしている。冬の温度差をなくすために浴室の床を温められるシャワーを設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動に参加して頂き、夜はしっかりと休んで頂くを基本としていますが、体調や気分によっては休んで頂いたり適宜対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方内容をファイルに綴じて職員が見えるところに配置しています。また薬の変更等があれば連絡帳に記載し情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご本人様の生活状況をみて出来ることをお願いしています。感謝の言葉を伝え張り合いがもてる生活が出来るように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日状況によって個別的に散歩に出かけたりと適宜対応しています。	ウッドデッキで日光浴を楽しんだり、周辺を散歩、ドライブするなどしている。コロナ禍以前は近くの店に買い物に出かけていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段お金を個々に所持はしていません。外出時など、おやつや飲み物を買う時に支払いをお願いするときはあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限はしていません。ご家族様やご本人様のご希望があれば適宜対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な飾りつけはせず、季節感を取り入れたものにしていきます。	事業所全体が清潔に保たれ、居間兼食堂は天井が高く天窓があり自然光を取り入れ、温度と湿度を管理し空気清浄機も配置し利用者が寛ぎやすい環境になるよう配慮している。一角に神棚があり朝夕に手を合わせる利用者もいる。カラオケもあり利用者は楽しんでいる。廊下には行事の写真や季節を感じる利用者の手作りの作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーなどを設置して思い思いに過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	細かな制限はせずに安心して過ごしていただけるようご本人様が作った作品や、持参されたお写真を飾るなど工夫しています。	居室にはエアコンやベッド、洗面台等が備え付けられている。自宅同様に過ごせるよう、使い慣れた物の持ち込みを説明している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけご自分で自由に動けるようパリアフリー、手すりなどを設置しています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 クリクリ田彦

作成日 令和4年6月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の備蓄品が十分な内容ではない 夜間帯・地震時を想定した避難訓練を十分に実施できていない。	備蓄品の充実化 夜間帯や地震を想定した避難訓練を年2回行う	もう一度備蓄品を見直し、備蓄水など補充する 地元消防所に協力を呼びかけ夏(夜間帯)・冬(地震)と避難訓練を行う。	12ヶ月
2	4	運営推進会議がコロナ禍で開催できておらず、各委員からの情報が把握できていない。	書面でもいいので意見などを書けるようなものを作る	運営推進会議に参加していただいている方に資料とともに意見書を配布し意見等を記入していただく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。